

長崎県の

# 漁師の暮らし

FISHERY WORKER'S LIFE



※掲載している方の年齢及び漁業暦、操業内容等は取材当時の情報です。

## 大阪から移住。 定置網による地域おこしを目指す

小型  
定置網漁業と  
素潜り漁の  
2本立てで操業  
しています



漁業暦6年  
野母崎三和  
漁業協同組合  
大戸起久男さん43歳



大戸さんは大阪で医療関係の仕事に従事されていましたが、36歳のときに野母崎町に移住しました。漁業を始めたのは、紹介された漁業者からの厳しい意見に逆やる気がでたからだそうです。移住後は藻場の回復活動など地域活動に積極的に参画され、平成26年度には知事から漁業士に認定されました。一本釣りや素潜り漁だけでは経営が厳しいことや、今後の野母崎町の地域おこしには雇用の場を確保できる漁業の育成が不可欠と考え、定置網漁業をはじめました。現在は技術習得研修者を受け入れ、技術の指導も行っています。将来的には現在の定置漁場を増やし、周年操業により雇用を拡大し、地域とともに発展していくことが夢のことです。

**経歴**  
36歳 県の紹介で野母崎町を訪れたのがきっかけで、平成21年10月に移住。国及び県の支援事業を活用して一本釣り漁業及び採介漁業の研修を開始。  
38歳 研修を終了。県の事業活用により漁船を取得し、一本釣り、採介漁業を開始するとともに、小型定置網漁業に従事。  
41歳 一本釣り、採介のみでは経営が厳しく、小型定置網の経営を開始。知事から青年漁業士の認定を受ける。

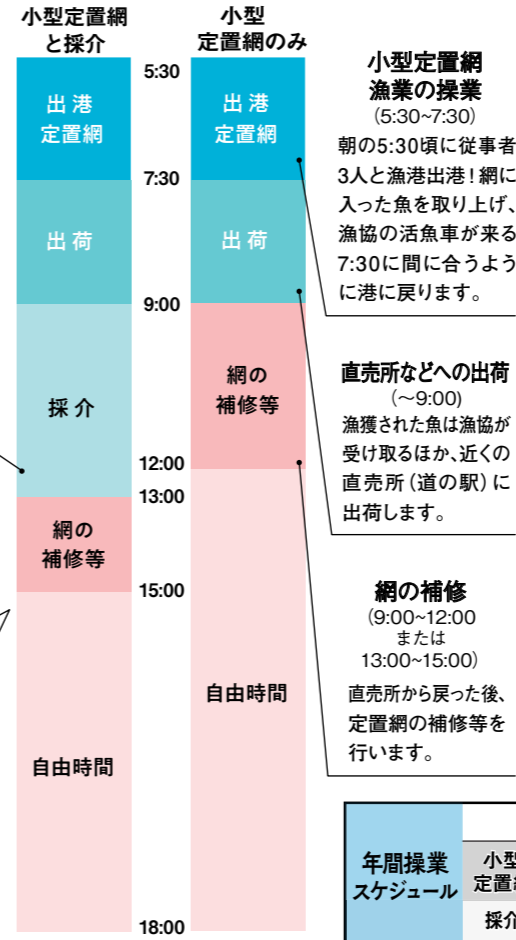
### 大戸さんの一日

#### 素潜り漁の操業

(9:00~13:00)  
素潜り漁は4月中旬から7月末までで、この時期は小型定置網漁業と併せて操業します。

#### 網の入替え作業

10日~2週間ごと(海上8:00~11:00)  
定置網は海中に入れたままにしておくことで汚れて魚が入らなくなります。また毎日の操業で傷んで破れたりしますので、定期的に交換し、汚れ落としとともに、破損した箇所の補修をします。



#### 素潜り漁の様子

#### 網の補修

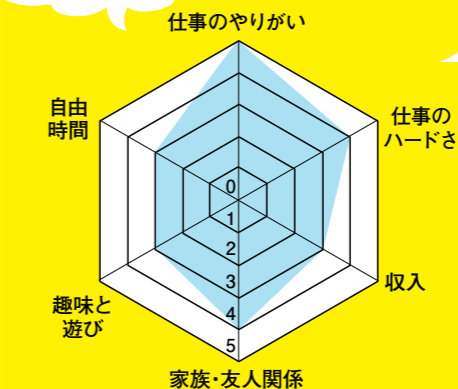


年間操業スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
小型定置網	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←
採介				←	←	←	←	←	←	←	←	←

### 地域活動など

- 野母崎三和漁協青壮年部、高浜地区青年団、高浜地区消防団所属
- 前PTA副会長(野母崎小学校)
- 青壮年部の一員として取組んだウニ駆除など藻場の保全活動について、平成24年度全国青年・女性漁業者交流大会で発表。藻場の回復活動は現在も継続中。
- 知事から認定された漁業士の活動として、水産教室で小学生を指導。
- 放射線技師と医療情報技師の資格を持ち、地元地区に資格を持った者がいないため、現在も週1~2日程度従事。

### 大戸さんの本音チャート



現時点ではまだまだ収入は厳しく、仕事もハードだけれど、大阪にいる時より友人も増えやりがいを感じています。

#### これから漁業を目指す方へ

- 安易に釣りで生活できるなどと考えないこと。
- 地域活動へ積極的に参加するなど、地域に溶け込み、地域とともに発展する努力が必要。
- 漁船の取得や開始後の運転資金(資材、燃油費等)が必要なため、そのための蓄えが必要。



# 仲間とのコミュニケーションが大切。 頑張る新米漁師

定置網漁業と  
カキ養殖業を  
営んでいます

鶴田さんは、三代続く漁家の出身。公認会計士を目指し、大学に進学しましたが、残念ながら会計士の夢は叶わず、愛知県にあるアパレル関係の会社へ就職しました。会社では地域マネージャーなどを務め、収入など待遇の面で不満はなかったのですが、仕事へのやりがいを感じられなくなり、平成二十一年に会社を退職し、地元に戻りました。帰郷後は、しばらく佐賀県の会社に勤めていましたが、知人からの勧めで漁協の直売所で働くようになりました。直売所に三年間務めたお陰で、地域漁業のこと、漁業者のことが少しずつ分かるようになり、漁業は努力次第で収入を上げられる魅力的な仕事と考え、令和二年から二年間、県の漁業研修を受けた後、令和四年八月から漁業に就業しました。現在は、父親のもとで小型定置網やカキ養殖の手伝いをしていますが、ようやく一人前の仕事ができるようになったということで、父親から事業の承継を受け、近々、漁業経営者として独立される予定となっています。



漁業暦1年  
諫早湾漁業  
協同組合  
鶴田英治さん37歳

## 経歴

- 21歳 県外の会社に就職  
愛知県のアパレル関係の会社に就職。マネージャー等として多忙な日々を送る。
- 23歳 地元に戻り  
仕事へのやりがいを感じられなくなり、会社を退職。地元に戻ります。
- 36歳 漁業研修を経て、  
漁業就業  
2年間の漁業研修終了後、父親のもとで漁業就業。

## 鶴田さんの一日

起床・身支度 朝食	5:00
出港・取り上げ	6:00
帰港・出荷作業 選別、箱詰め、運送	7:00
海上又は陸上作業 カキ手入れ、網修理	8:00
昼食	12:00
海上又は陸上作業 (続き)	13:00
帰宅	17:00
夕食	18:00
入浴	19:00
自由時間	19:30
就寝	21:00

### 小型定置網の操業

朝6時に出港。港から漁場までの時間は約10分。定置網に入った魚を取り上げた後、7時に帰港。港に戻ってから魚の選別、箱詰めなどの出荷作業を行います。獲れた魚は、近くの魚市場や漁協直売所に出荷します

### 海上又は陸上作業

出荷が終了した後、海上で養殖カキの手入れ作業や陸上で定置網の修理などを行います。定置網は、網が汚れると魚が獲れなくなるので、春は2週間ごと、秋は1ヶ月ごとに網の入れ替え作業を行います。

### 定置網漁業について

イカリなどを使って魚の通り道(魚道)に相当の期間にわたり漁具を設置して、網に入った魚を獲る漁法。漁具を設置する水深によって大型定置網と小型定置網に分けられます。鶴田さんの定置網は、水深の浅い漁場に設置される小型定置網で、コノシロ、イシモチ、スズキ等様々な魚が獲れます。

### カキ養殖

起床・身支度 朝食	6:00
出港・海上作業 カキ脱貝、水洗い	7:00
貝掃除(手作業) フジツボ落とし	10:00
昼食(船上)	12:00
海上作業(続き) 丸カゴに入れて垂下	13:00
帰港	15:00
帰宅	16:00
夕食	17:00
入浴	17:30
自由時間	18:00
就寝	21:00

### カキの養殖

5月頃にカキ種苗が付いたコレクター(ホタテ貝殻)10~15枚を5~7mのロープにはさみ込み、沖の養殖イカダから垂下します。

### 海上作業

11月頃に船上でロープからカキとコレクターを取り外し(脱貝・洗浄)、カキに付着したフジツボなどを掃除した後、丸カゴに移し替え、出荷まで養殖イカダから垂下します(養成)。出荷は、12月頃から始まり、鶴田さんは1日に約100kgのカキを漁協に出荷します。

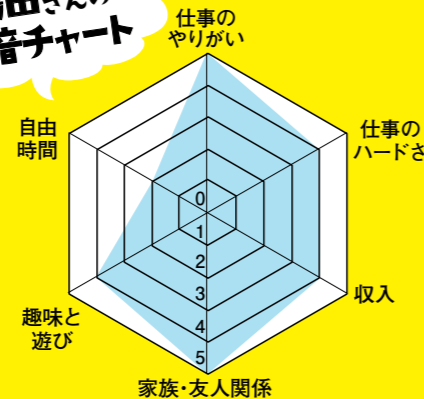
### カキ養殖について

海上のイカダからカキ種苗の付いたコレクターをつり下げる養殖のほか、干潟に杭を立ててケーブルを張り、それにカキ種苗(シングルシード)の入ったバスケット(プラスチック製の円筒状のカゴ)をつり下げる養殖が行われています。

年間操業スケジュール	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	主な漁獲物
定置網													コノシロ、イシモチ、スズキ
カキ養殖													カキ

※7~8月クラゲすくい網(雇われ)

## 鶴田さんの本音チャート



## 家族(母)の声

定置網や養殖の仕事を一人でできるようになり、喜んでいます。主人のあとを継ぎ、今度漁協の組合員にもなりますので、自分の家族を養うため、しっかり頑張ってほしいと思います。

## 漁業就業を目指す方へ

漁業は、自然相手の仕事なので、好不漁の波はありますが、努力次第で自分の思うような収入を上げることができます。海が好きなお人にとっては、まさに天職。魅力的な仕事ではないでしょうか。農業と違い、漁業は個々の仕事のイメージがありますが、漁協の青壮年部に入り、仲間からいろいろなことを教えてもらっています。ヨコの繋がり、仲間とのコミュニケーションは大切だと思います。

## 漁業以外の活動の様子



### 漁協青壮年部の活動

青壮年部では、毎年地元の小学生を招いて、カキ養殖の漁業体験を行っています。また、新たな養殖としてイワガキの養殖にチャレンジしています。鶴田さんも漁協青壮年部の活動には積極的に参加し、仲間とのコミュニケーションを大切にしています。

# 祖父、父の背中を見て漁師に!

定置漁業の  
従業員として  
就業しています

綾香さんは、長崎県平戸市主師地区で三代続く漁家(定置漁業)の出身です。綾香さんは、長崎市内の高校への進学を機に一度親元から離れ、水産学(機関科)を修学しました。高校卒業後に帰郷し、現在は祖父が代表を務める「綾香水産」にて定置漁業に従事しています。就業して三年目となりますが、九名の従事者の中では最年少であり、操業に必要な一連の作業を一日でも早くマスターしようと奮闘中です。最近では、所属漁協の青年部活動や、趣味である陸ガメ飼育、園芸も楽しみながら充実した毎日を送られています。



漁業暦3年  
平戸市  
主師地区  
中野漁業  
協同組合  
綾香幸城さん21歳

## 綾香さんの一日

仕事の日	休日
起床・身支度 出勤	起床
操業・ 水揚げ作業	園芸(バラ栽培などをしたたり、ベットの陸ガメと戯れる)
朝食	洗濯
9:30	9:30
網補修作業(陸上)or 盛漁期であれば、操業・ 水揚げ作業	図書館で 読書
11:00	11:00
昼食	この日は遠方 まで友人たちと ドライブし、 カラオケや 食事を楽しむ
13:00	12:30
操業・ 水揚げ作業	
16:00	
帰宅	
17:00	
自由時間 (音楽、ゲーム)	
19:00	
夕食	
19:30	
自由時間 (TV)	
21:00	
就寝	就寝
	22:00

## 定置漁業の様子



① 網の手練り寄せ



② 漁獲物の取り上げ



③ 漁獲物の選別



④ 水揚げ・箱立て



網の補修



食事は従業員皆で食べる



食事を作る幸城さんの母(由紀さん)

## 定置漁業とは

支柱や碇などを使って漁場に網を固定し回遊する魚を漁獲する方法で、ブリ、イワシ、アジ、アゴ(トビウオ)、イカ、イサキなど様々な魚が獲れます。綾香水産では周年操業していますが、シラ、アゴ、サンマが多く取れる秋から初春が繁忙期です。

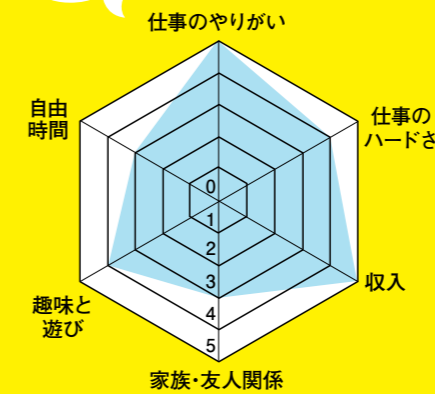
## 漁業以外の活動の様子

漁協青年部活動  
子供を対象としたお魚料理教室



趣味の陸ガメ飼育

## 綾香さんの本音チャート



## 家族(父)の声

「卒業したら平戸に帰ってくる!」と言って市外の高校に進学した息子は、言葉どおり平戸に帰ってきました。高校で学んだ機関の知識を、漁船エンジンのメンテなどに役立ててくれています。頼もしく思う反面、一人前になるにはまだまだ覚えるべきことが多くあるので、先輩から知識や技術を貪欲に吸収してほしいと思います。

## これから漁業を目指す方へ

始業は早い時間になりますが、昼夜逆転ではないので、日中に仕事をされている方も入りやすいと思います。雇われの従業員であれば安定的に給与を得られますし、太陽の下で体を動かしたい方にはオススメです。ただし、夜遅くまで晩酌を楽しみたいという方にはやや厳しいかも。私はお酒が苦手なので、その点の苦労はありません(笑)

# 大手電機メーカーのエンジニアから漁師の道へ

吉田さんは、世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成資産のひとつであり、教会の島として知られる黒島集落で漁業を営んでいます。以前は神奈川県で大手電機メーカーのエンジニアとして忙しい日々を送っていましたが、数年前に両親が入院したことを機に、里帰りを決意したそうです。前職では、リーダーとして多くの部下と複数のプロジェクトを抱えていたそうですが、漁師は自分ひとりの判断で仕事ができるので、その点は気持ちが高まりましたと仰っています。当初は、転職に反対していた家族も、今では応援してくれているそうです。漁業の魅力について、吉田さんは、大自然のもと手に職を付けられることや、自分の頑張り次第で収入を増やすことができるところなどを挙げられました。会社員時代の同僚に獲れたての魚を送ると、その美味しさに驚かれるそうで、これからもどんどん黒島の魚の美味しさを広めていきたいと語ってくれました。

刺網・一本釣り・イカ釣り漁業を営んでいます



漁業暦1年 佐世保市黒島  
佐世保市相浦漁業協同組合  
吉田和彦さん52歳

**経歴** 22歳 大学卒業後、神奈川県で大手電機メーカーのエンジニアとして活躍。 45歳 電機メーカーを退職。漁業技術習得のため、県の事業(生活費の助成)を活用し、父親のもとで研修開始。 47歳 研修終了後、漁船を購入し、独立一本立ち。

## 吉田さんの一日

吉田さんは、春から秋にケンサキイカやアジを対象とした一本釣り、冬にはイセエビやメジナを対象とした刺網漁業を営んでいます。一本釣り、刺網ともに、夕方から明け方までの操業で、夜型の生活パターンに慣れるまで少し時間がかかったそうです。漁場は黒島周辺が中心、遠くても船で2時間程の五島灘で、盆、正月、シケの日以外、年間240~300日間操業しています。



年間操業スケジュール		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
イカ釣り					←	←	←	←	←	←	←	←	←
一本釣り(マアジ)										←	←	←	←
刺網(イセエビ、メジナ)		←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←	←

## 刺網・一本釣り・イカ釣り操業



# 関東からターン、高校卒業後に五島で定置網に従事

古川さんは、五島市玉之浦において、定置網漁業に従事しています。埼玉県出身で、高校在学中に一本釣り漁業の就業を希望していましたが、卒業後に五島市に移住して雇用の柿森強氏に会い、定置網漁業に魅力を感じ、従事者となりました。従事して数年で定置網漁業の漁労技術や知識を身につけており、将来は独立して定置網漁業の経営を目指しています。雇用のところには、県内の高校生が漁業研修に来ることがあり、その際は古川さんも指導し、少しでも漁業に興味を持ってもらえるよう話をしているそうです。

定置網漁業に従事しています



漁業暦4年 五島市玉之浦  
五島漁業協同組合  
古川佑宇さん23歳

**経歴** 18歳 漁業就業を強く意識。関東の高校在学中、一本釣り漁業を希望。 19歳 定置網漁業に従事。高校卒業後、五島市玉之浦に移住し、雇用の柿森強氏に会い、定置網漁業に魅力を感じて従事する。平成29年に県主催の漁業講座(漁村塾)も受講。



## 古川さんの一日

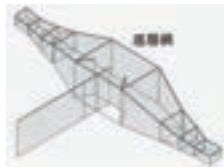
朝6~7時に出港し、玉之浦湾内と湾外の2つある定置網を揚げて、魚を獲ります。玉之浦湾内は多少のシケなどでも網持ちできます。

9:30ごろに港に戻り、魚の出荷は漁協支所に預けるだけなので、5分程度で済みます。魚種によっては、蓄養生質に活け込みます。

出荷が終わったら、網の補修や船のメンテナンスなどをします。日々の漁に備える大事な仕事です。



底層網とは  
主に中~下層を遊泳する魚種を対象とし、潮流が速いところでも操業が可能で少人数で操業できます。  
※玉之浦で導入され、玉之浦をはじめ五島市内で普及しています。  
引用:長崎県定置漁業協会 定置長崎~技術伝承~

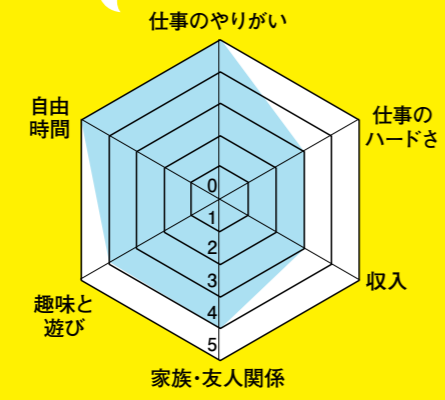


## 余暇の過ごし方等

漁が休みの日は、イカ釣り用の餌木を補修したり、家でビール等を飲みながらテレビやDVDをゆったりと観賞し、心身ともにリフレッシュしているそうです。子供の学校の関係で、妻と子供3人(1男2女)を神奈川県に残し、今は吉田さんだけ実家暮らしをしていますが、中学3年生の末っ子が高校を卒業したら、妻が黒島に来てくれることになっているので、その日が来るのを心待ちにしているとのこと。子供たちは関東で就職することになるだろうと予想していますが、大学4年生の長男が、もし、黒島で漁師になりたいと言ってくれば、ぜひ応援したいと笑顔で話してくれました。



## 吉田さんの本音チャート



## 父:吉田幸徳さんの声

息子が黒島に戻ってきて、4年目になりました。操船や仕事の段取りなど、まだまだのところはありますが、これからもっと勉強して、一人前の漁師になれるよう日々頑張ってもらっています。漁業技術の習得に近道はなく、手順を踏んで、回数や工夫が必要だと思います。将来を楽しみにしています。

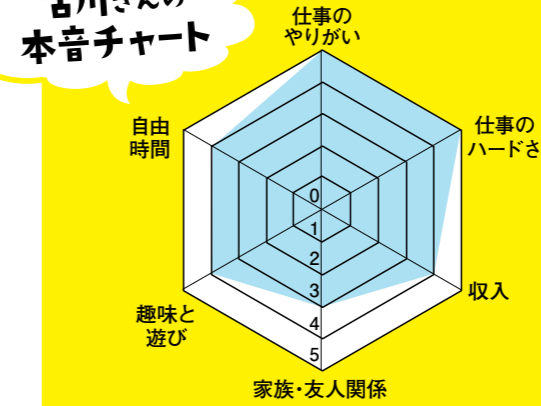
## これから漁業を目指す方へ

漁業は自然の影響を受けやすく、とても大変な仕事ですが、その一方で、やりがいも大きいと思います。最近では、漁業研修支援制度など行政の補助事業も充実しているので、以前と比べるとハードルは随分と下がっていると思います。漁業を目指す人は、一度、トライしてみてください。

## 漁業以外の活動の様子

休日は、街に買い物に行ったり、一人でカラオケに行ったりしています。家に居る時は、本を読むかゲームをしたりしています。また、趣味でイカやアラカブなどの釣りもやっています。

## 古川さんの本音チャート



## 雇用者の声

数年で定置網漁業の漁労技術と知識を身につけており、将来は独立して定置網漁業を経営して欲しい。

## これから漁業を目指す方へ

漁業就業者の高齢化や担い手不足を実感しています。自分のように高校生のときに漁業に興味を持ってもらい、漁業に就業して欲しいです。

